2026 春号

廿日市市 地域支援員だより



写真：津田商店街の旧藤井精肉店を改修し、交流拠点「UNIQUE U（ユニーク ユー）」誕生。

地域支援員とは

地域の皆さんと地域おこし活動に取り組んだり、地域内外の交流を図ったり、地域の情報発信を行い、地域の力を強くするために、廿日市市職員として１年単位で任用されています。
任期は最長３年で、今年度は６名の地域支援員が活動中です。
この冊子を通して、各地域支援員の取り組みや活動を知っていただけたらと思います。
今号は、3月末で任期満了となる2名の3年間の取り組みを見開きでご紹介いたします！

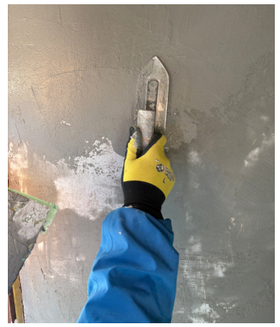
空き家DIYイベントを実施！

2月21日（土）に空き家の和室で、初心者向けの「壁塗りワークショップ」を開催しました。講師には合同会社とこらぼの金澤氏を迎え、職人の技を家庭で活かすコツを伝授していただきました。今回のコンセプトは「家庭で壁塗りができるようになる」、そのためホームセンターで揃えられる材料を使って実施しました。左官士の指導のもと、道具の使い方のコツを教わりながら作業を進めることで、参加者の皆さんも納得の様子でした。

参加者からは「手順が分かった」「DIYへの関心が高まった」といった様々な反応が見受けられました。

今後も、DIYの輪を広げて空き家活用促進へとつなげていきたいです。





定住推進担当　田崎

「ニッポン手仕事図鑑」宮島細工産地留学開催

2月27日から3月1日までの3日間、宮島伝統産業会館や各工房で、「ニッポン手仕事図鑑」による産地留学ツアーが開催されました。産地留学は、工房見学や仕事体験を通じて、学びの場を提供するプログラムで職人との交流や地域文化への理解を深め、ファンの拡大や将来の職人・伝え手の育成を目指す取り組みです。全国公募には多数の応募があり、選出された5名が参加しました。

初日は伝統工芸士の大野浩氏の協力のもと宮島彫（みやじまぼり）の見学と体験を実施。2日目は倉本杓子工場（くらもとしゃくし）で見学、午後は伝統工芸士の藤本悟氏と私の指導でろくろ挽（ひ）きやろくろ鉋（かんな）の鍛冶（かじ）を体験。各回後には座談会も開催されました。最終日は大杓子（おおしゃくし）製造の後継者育成工房や廿日市市の移住座談会、下村氏の工房を見学。最後に参加者が宮島細工の普及案や新商品案を発表し、3日間の学びを締めくくりました。





倉本杓子工場の見学の様子

伝統工芸継承担当　下村

米作り体験イベント開催します！

2026年5月から、虫所山地区で米作り体験プロジェクトを開催することになりました！田植えから稲刈り、収穫したお米の実食までを約半年間全４回のイベントで実施します。ご飯が食卓に並ぶまでを実体験できる貴重な機会です。そしてイベントの終わりには、育てたお米をお持ち帰りいただけます。

詳細につきましては地域支援員公式HPに記事を掲載しておりますので、そちらをご覧ください。たくさんのご応募をお待ちしております！

概要

第1回日時：５月１７日(日)

第1回内容：田植え体験・見学

集合場所：
万古渓養魚観光センター駐車場

定員：10組(先着順)

※内容は変更となる可能性があります。その他詳細については地域支援員公式HPをご覧ください。



地域支援員公式HP(米作り体験イベント詳細)→

地域農業活性化担当　乾

「花咲く文庫」誕生！





１・２月の『玖島に遊び場を作ろう大作戦』でカフェ玖島学園後方に「花咲く文庫」が誕生！絵本を読んだり一休みできる空間です✨２月１５日、絵本の読み語りイベントを開催。３月２０日絵本お譲り会＆ワークショップを開催しました。



♡恋文コンテスト♡

２月１４日～３月１４日、恋文コンテスト開催！バレンタイン、ホワイトデー特別企画で、大切な人に送る恋文を募集しました。カフェ入り口設置のポストに投函して応募しました！

玖島花咲く館４周年

玖島花咲く館は、４月で開館４周年を迎えました。４月３日～６日は、カフェでお祝い御膳を提供。５日は、さいきブラスの演奏やKEN-G(けん玉パフォーマンスと体験)など、館内イベントを開催いたします。ぜひご来館ください！！



玖島地区活性化担当　東

佐伯高校魅力化担当

佐伯高校魅力化担当は、佐伯高校の魅力を高め、入学者数の増加や学校の存続につなげることを目的に設置されました。地域に必要とされる高校であり続けるために、「選ばれる学校とは何か」を考え、先生方や生徒、地域の皆さんと関わり、地元の中学生に「佐伯高校で学びたい」と思ってもらえるような魅力づくりに取り組んできました。

1年目



1年目は、学校や生徒、地域が何を求めているのかを知ることからスタートしました。日々の関わりを大切にしながら、伴走のあり方を学ぶため、先生方と他校への視察にも参加しました。慣れない専門用語に戸惑うこともありましたが、生徒の思いや考えを引き出す関わり方について多くを学ぶことができました。

また、広報活動として卒業式に写真展を開催しました。仲間と過ごした思い出を共有することで、佐伯高校への愛着につながればという思いで取り組みました。

2年目

2年目は、公営塾の見直しに取り組みました。他校の視察や生徒・保護者へのアンケートを通して、生徒が求める学びの形を検討し、新たに「自主学習・個別指導教室」「小論文・面接対策クラス」を開講しました。多くの生徒が集まり賑わう様子を見たときは、求められていたものを形にできたと実感し、本当にほっとしたことを覚えています。また、「佐伯高校地域支援員だより」を紙面で作成し、中学校や地域への配布を開始しました。さらに、地域支援員ホームページ内に佐伯高校の紹介ページを作成し、県外からの入学希望者にも学校生活をイメージしてもらえるよう情報発信を行いました。



3年目

3年目は、任期の最後の年であっても挑戦を続けることを意識して活動しました。公営塾では、地元中学生の入試対策として、高校生を講師に迎えた「自己表現講座」を開講しました。

また、地域から学ぶ機会として「地域のオトナから学ぶワークショップ」を地元の中高生を対象に開催しました。



メッセージ



私は、教育や広報の分野は未経験で、この仕事をきっかけに初めて佐伯地域とも関わりを持ちました。そんな中で、このたび任期満了を迎え、多くの方から「辞めてしまうのはさみしい」「まだ続けてほしい」といった温かい言葉をかけていただき、そのことをとても嬉しく感じています。

任期終了後は、廿日市市友和地区で「Coffee とき」というカフェを運営しています。生徒の皆さんには勉強や友人とのおしゃべりの時間として、また地域の皆さんにはほっと一息つける場所として、気軽に立ち寄っていただけたら嬉しいです。これからも、地域の中で皆さんとつながり続けられることを楽しみにしています。

稲田　元樹

商店街活性化担当(沿岸部)

このたび３年間の任期を終え、卒業することとなりました。
この３年間は、多くの出会い・さまざまな経験をさせていただきました。

1年目

1年目は、まず商店街の方々に顔を覚えてもらうことから始め、ひたすら商店街を歩きながら挨拶回りやイベントのお手伝いを行いました。たくさんの方と会話する中で、商店街の歴史やお店のことを知ることができ、地域の魅力を改めて実感することができました。

また、商店街の方へのインタビューや店舗紹介、イベントを掲載した冊子を作成し、商店街の情報発信にも取り組みました。







2年目

2年目は、引き続き商店街の冊子の作成やイベントのお手伝い、出店者の募集など担当させていただきました。

また、学生との交流が増え、商店街の方の案内で地域を巡ったり、大学祭では2つの商店街が合同で出店するという取り組みに参加させていただくなど、多様な活動を経験しました。











3年目　「商店街みんなの広場 マルマル」完成！！





3年目は、信金中央金庫様より企業版ふるさと納税を通じていただいた寄付金を活用し、商店街に賑わい空間として「商店街みんなの広場 マルマル」を整備しました。この広場は、年代を問わず誰もが気軽に利用できる空間として常時開放されています。

また、8月8日のお披露目会以降はさまざまなイベントも開催し、多くの方が足を運んでくださいました。私自身もイベントの企画・運営に携わり、苦労する場面もありましたが、参加者の笑顔を見るたびに大きな喜びと達成感を実感することができました。









メッセージ



任期当初は不安でいっぱいでしたが、商店街の皆さまの温かい支えのもと、3年間無事に終えることができました。任期中は、商店街の方へのインタビューから編集やイベントの企画から運営までを主体的に携わるなど、さまざまな経験をさせていただきました。３年目には、大好きなプロレスを商店街のお祭りの一環として開催することができ、とても感動しました。また、少しずつ皆さまから頼っていただけるようになったと実感できたことは、嬉しい思い出です。ここで得た学びや出会いは、今後の大きな財産です。これまで関わってくださったすべての皆さま、本当にありがとうございました。

狩山　穂香